

| | | | | | | |
|-------------|-----------|------|--------|------|-----------------|----|
| 教科 | 福祉 | 科目 | 社会福祉基礎 | | 必修・選択の別 | 必須 |
| 単位数 | 2 | 履修学年 | 2 | 履修学科 | 福祉科 | |
| 使用教科書 | 実教 社会福祉基礎 | | | 副教材等 | 実教 社会福祉基礎 学習ノート | |
| 分割履修の有無（学年） | | 有（1） | | 授業形態 | 一斉（座学・演習） | |

| 科目の到達目標 | | |
|---|--|---|
| <p>・対人援助に必要な人間の理解や人間関係を構築するための技法を学び、また、対人関係形成のためのコミュニケーションの基本的な技法活用できる。</p> <p>・社会保障の基本的な仕組みや社会福祉の各分野が生まれてきた社会背景や概要などに関する学習活動を通して、各制度の意義や役割、現状と課題について理解できる。</p> | | |
| 知識及び理解 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 社会福祉の基礎的な資質・能力を日常生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付ける。 | 現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付ける。 | 福祉の見方・考え方を働かせて、福祉社会の創造と発展のため、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。 |

| 学習の評価 | | | | |
|---------------|--|--|--|--|
| | 学習活動、指導上の留意点等 | A：十分に到達できている | B:一部は到達できている | C:到達に努力を要する |
| 知識・技能 | 社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けることができた。 | 社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を十分に身に付けることができた。 | 社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けることができた。 | 社会福祉の基礎的な資質・能力を実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付けることに努めた。 |
| 思考・判断・表現 | 現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付けることができた。 | 現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、多角的に解決する力を身に付けることができた。 | 現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付けることができた。 | 現代社会における社会福祉に関する課題を発見し、職業人の求められる倫理観を踏まえ、解決する力を身に付けることに努めた。 |
| 学習の主体的に取り組む態度 | 福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。 | 福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち続け、課題解決に向けた方法を探究する態度を身に付けた。 | 福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組む態度を身に付けた。 | 福祉に関する日常生活の身近な課題、社会的課題に関心を持ち、課題解決に向けた学習に取り組もうと努力した。 |

| | |
|-----------|--|
| 提出物 | 学習プリント、学習ノート、各種課題 |
| 評価方法 | 年4回定期考査（観点別の問題）、小テスト、各種提出物、課題の取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価 |
| 評価割合（%） | 知識：技術（50）：思考・判断・表現（30）：主体的に学習に取り組む態度（20） |
| 関連する資格・検定 | 介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉・介護福祉検定 |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|--------|------------------------------|---|--|--|----|
| 前 期 | 第1回 回 考 査 ま で | 第3編 生活を支える社会福祉・社会 保障制度 第3章 障害者福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・障害者についての理解 ・障害者福祉の理念、法制度、現状 ・少子高齢化についての理解と課題 ・高齢者の健康保持と社会参加促進に向けた様々な施策 ・介護保険制度成立までの経緯、制度の概要、見直しの経緯 ・施設の再編、高齢者虐待防止、福祉人材確保と課題 ・在宅生活を支援する相談機関についての理解 ・認知症の症状や認知症ケアサービスについての理解 | ①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| | 第2回 回 考 査 ま で | 第4章 高齢者福祉と介護保険制度 第5章 生活支援のための公的扶助 第6章 国民生活を支える社会保障制 度 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムのあり方 ・生活保護制度の目的、基本原理・原則についての理解 ・社会保険制度・医療保険制度についての理解 ・高齢者医療制度や医療提供体制のしくみについての理解 ・公的年金制度の概要、雇用保険についての理解 ・公的年金の種類、年金額改定のしくみについての理解 ・雇用支援や若者への自立支援のあり方について考察 | ①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| 後 期 | 第3回 回 考 査 ま で | 第2章 支援における人間関係の形成 第3章 社会福祉における援助活動の 概要 第5編 地域福祉の進展と多様な社会 的支援制度 | <ul style="list-style-type: none"> ・個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術の原則、展開過程の理解 ・チームワークとチームケアについての理解 ・地域医療のしくみや特別支援教育、奨学金制度への理解 ・権利擁護や成年後見制度のしくみを理解 ・福祉専門職の業務に関する理解をすると共に福祉・介護の望ましい職場環境、キャリア形成のあり方について理解する | ①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| | 第4回 回 考 査 ま で | 第1章 多様な社会的支援制度 第2章 地域福祉の進展と地域の将来 * 1・2年の復習 養成講座より | <ul style="list-style-type: none"> ・相互扶助から地域社会づくりのあり方を理解する ・ボランティアや社会福祉協議会、特定非営利活動法人等についての理解 ・共生社会の確立に向け望ましいあり方を理解する ・バリアフリーを目指したまちづくりの価値について理解 ・社会福祉が担う役割と構築方法について理解する | ①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |

準備物及び学習へのアドバイス 等

準備物：教科書、副教材、ファイル、タブレット

アドバイス：利用者の方々の生活を支える上で必要な知識なので、興味・関心を持って授業に臨んでください。

| | | | | | | |
|-------------|-------------------|-------|--------|------|----------------|----|
| 教科 | 福祉 | 科目 | 介護福祉基礎 | | 必修・選択の別 | 必修 |
| 単位数 | 2 | 履修学年 | 2 | 履修学科 | 福祉科 | |
| 使用教科書 | 7 実教 福祉702 介護福祉基礎 | | | 副教材等 | 実教 介護福祉基礎学習ノート | |
| 分割履修の有無（学年） | | 有（3年） | | 授業形態 | 一斉 | |

| 科目の到達目標 | | |
|---|--|---|
| 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、介護に関する知識と技術を身に付け、人間の尊厳を支え自立支援に必要な基礎的な資質・能力を育成することを目指している。 | | |
| 知識及び技術 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 介護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 介護に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。 | 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、適切な介護の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。 |

| 学習の評価 | | | | |
|------------|---|--|---|--|
| | 学習活動、指導上の留意点等 | A：十分に到達できている | B:一部は到達できている | C:到達に努力を要する |
| 知識・技術 | 人間の尊厳や自立支援、介護従事者としての職業倫理、国際生活機能分類などと関連付けて学習させる。 | 尊厳を支える介護、自立に向けた支援などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができた。 | 尊厳を支える介護、自立に向けた支援などについて理解した。 | 尊厳を支える介護、自立に向けた支援などについて理解しようとしている。 |
| 思考・判断・表現 | 豊かな人間性や倫理観を育み、自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービスを提供する態度を養うことができるよう留意して学習させる。 | 介護に関する意義と役割などについての課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、創造的に解決する力を身に付けることができた。 | 介護に関する意義と役割などについての課題を発見し、自分の言葉で表現したり、解決する力を身に付けることができた。 | 介護に関する意義と役割などについての課題を発見したり、解決したりしようとした。 |
| 主体的に取り組む態度 | プライバシーの保護や自己決定の保障、継続的な地域生活の支援などの人権尊重の意義や重要性について理解できるよう留意して学習させる。 | 介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けることができた。 | 介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学んだり、主体的に取り組む力を身に付けたりすることができた。 | 介護に関する意義と役割、介護の必要性について自ら学んだり、主体的に取り組んだりしようとした。 |

| | |
|-----------|--|
| 提出物 | 学習を記録したプリント、課題レポート |
| 評価方法 | 評価観点別に、年4回の定期考査、小テスト、提出物、レポート等の学習への取り組み状況などを総合的に評価 |
| 評価割合（%） | 知識・技術（50） ・思考・判断・表現（30） ・主体的に学習に取り組む態度（20） |
| 関連する資格・検定 | ・介護福祉士国家試験受験資格 ・介護職員初任者研修 ・社会福祉介護福祉検定1～3級 |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|--------|------------------------------|---|---|--|----|
| 前 期 | 第1回 回 考 査 ま で | 第1編 介護の意義と役割 第1章 尊厳を支える介護 第2章 自立に向けた支援 | 介護の意義、介護の目的と役割、生活の質（QOL）、ノーマライゼーション、サービス利用者の潜在的能力を引き出すことなど介護の必要性について学習する。 充実した人生を地域で継続的に送るための自立の考え方を理解する。サービス利用者の自己決定と自己選択、ストレングスや個性の尊重などについて学習する。 | ①知識・技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習を記録したプリント等の総合評価 | |
| | 第2回 回 考 査 ま で | 第2編 介護福祉の担い手 第1章 介護従事者をとりまく状況 第2章 介護従事者の役割と 介護福祉士 | 少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化、介護離職、遠距離介護、ダブルケアなど介護の歴史と現状、介護福祉士などの介護従事者の養成や在り方などについて学習する。 地域における継続した生活を支える介護従事者の役割と機能、介護福祉士とチームリーダーなどについて学習する。 | ①知識・技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習を記録したプリント等の総合評価 | |
| 後 期 | 第3回 回 考 査 ま で | 第2編 介護福祉の担い手 第3章 介護従事者の倫理 | 介護従事者の専門性と基本姿勢、多様な価値観の尊重、プライバシー保護、人権の尊重、責任と任務などを取り上げ、介護従事者に必要な倫理と態度について学習する。 | ①知識・技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習を記録したプリント等の総合評価 | |
| | 第4回 回 考 査 ま で | 第2編 介護福祉の担い手 第4章 介護実践における連携 | 保健・医療・福祉などの多職種の専門性や役割と機能、情報共有などについて学習する。 | ①知識・技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考・判断・表現 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 学習を記録したプリント等の総合評価 | |

準備物及び学習へのアドバイス 等

《準備物》教科書、ファイル、学習ノート、タブレット端末

《アドバイス》利用者の方々の生活を支える上で必要な基本的な知識となりますので、興味や関心を持って授業に臨んで下さい。

| | | | | | | |
|--------------|-------------|-----------|--------|------|--------------------------|----|
| 教科 | 福祉 | 科目 | 生活支援技術 | | 必修・選択の別 | 必須 |
| 単位数 | 3 | 履修学年 | 2 | 履修学科 | 福祉科 | |
| 使用教科書 | 7 実教 生活支援技術 | | | 副教材等 | 最新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術 II | |
| 分割履修の有無 (学年) | | 有(1、3 学年) | | 授業形態 | 一斉 | |

科目の到達目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を育成する。

| | | |
|---|--|---|
| 知識及び理解 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 自立生活の支援について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 | 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 | 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。 |

学習の評価

| | 学習活動、指導上の留意点等 | A:十分に到達できている | B:一部は到達できている | C:到達に努力を要する |
|------------|--|--|--|---|
| 知識・技能 | 自立に向けた生活支援に必要な資質・能力を利用者主体の生活と関連させながら体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を通して関連する技術を身に付ける。 | 自立に向けた生活支援について、利用者主体の生活と関連させながら理解し、関連する技術を身に付けている。 | 自立に向けた生活支援について理解し、関連する技術を身に付けている。 | 自立に向けた生活支援について理解しておらず、関連する技術も身に付けていない。 |
| 思考・判断・表現 | 自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する。 | 自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を具体的に述べている。 | 自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。 | 自立に向けた生活支援の展開に関する課題を発見し、解決する方法を述べている。 |
| 主体的に取り組む態度 | 尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うため、福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に取り組む。 | 福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うための方法を具体的に述べている。 | 福祉の見方・考え方を働かせ、尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うための方法を述べている。 | 尊厳の保持や自立支援に根ざした豊かな生活に向けた支援を行うための方法を述べている。 |

| | |
|-----------|---|
| 提出物 | 授業の振り返り、課題レポート等 |
| 評価方法 | 評価の観点別に、年4回の定期考査、実技テスト、提出物等の学習への取り組み状況を総合的に評価 |
| 評価割合 (%) | 知識・技術: 50% (考査: 40%・考査以外: 10%) 思考・判断・表現: 30% (考査: 20%・考査以外: 10%) 主体的に学習に取り組む態度: 20% (考査以外: 20%) |
| 関連する資格・検定 | ①介護福祉士国家試験受験資格 ②介護職員初任者研修課程 ③社会福祉・介護福祉検定 1~3級 |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|--------|-----------------|--------------------------------------|--|---|----|
| 前 期 | 第1回 考査 まで | 自立に向けた生活支援 緊急時・災害時の支援 | 移動支援 ・緊急時の支援 ・災害時の支援 | ①知識及び技能 考査、実技試験、筆記試験 ②思考力、判断力、表現力等 考査、筆記試験、振り返り シートの記述内容 ③学びに向かう力、人間力等 振り返りシートの記述内容 | |
| | 第2回 考査 まで | 自立に向けた生活支援 終末期の支援 | 入浴・清潔保持の支援 ・終末期の支援 ・死を迎える人への支援と 留意点 | ①知識及び技能 考査、実技試験、筆記試験 ②思考力、判断力、表現力等 考査、筆記試験、振り返り シートの記述内容 ③学びに向かう力、人間力等 振り返りシートの記述内容 | |
| 後 期 | 第3回 考査 まで | 自立に向けた生活支援 生活支援の理解、自立に 向けた生活支援 | 身じたくの支援 国家試験対策問題 | ①知識及び技能 考査、実技試験、筆記試験 ②思考力、判断力、表現力等 考査、筆記試験、振り返り シートの記述内容 ③学びに向かう力、人間力等 振り返りシートの記述内容 | |
| | 第4回 考査 まで | 自立に向けた生活支援 | ・事例検討 ・国家試験対策問題 | ①知識及び技能 考査、実技試験、筆記試験 ②思考力、判断力、表現力等 考査、筆記試験、振り返り シートの記述内容 ③学びに向かう力、人間力等 振り返りシートの記述内容 | |

準備物及び学習へのアドバイス 等

- ①筆記用具・教科書・ファイル・iPad（資料配布や振り返りシートで**必ず**使用）を毎時間準備して下さい。
- ②毎考査授業内で筆記試験や実技試験し、評価します。
- ③1時間だけの授業は座学、2時間連続の授業は実技を実施します。

| | | | | | | |
|-------------|----|----------|--------|------|---------|----|
| 教科 | 福祉 | 科目 | 介護総合演習 | | 必修・選択の別 | 必須 |
| 単位数 | 1 | 履修学年 | 2 | 履修学科 | 福祉科 | |
| 使用教科書 | なし | | | 副教材等 | なし | |
| 分割履修の有無(学年) | | 有(1・3学年) | | 授業形態 | 一斉 | |

科目の到達目標

福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を身に付ける。

| | | |
|---|---|--|
| 知識及び理解 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 | 地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 | 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。 |

学習の評価

| | 学習活動、指導上の留意点等 | A:十分に到達できている | B:一部は到達できている | C:到達に努力を要する |
|--------------|--|---|---|--|
| 知識・技能 | 地域福祉や福祉社会について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 | 福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術を具体的にまとめることができる。 | 福祉に関する他の科目で学んだ知識と技術を関連させながら、介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。 | 介護実習で身に付けた知識や技術をまとめることができる。 |
| 思考・判断・表現 | 地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 | 介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、解決する方法を具体的に述べている。 | 介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ解決策を探求し、解決する方法を述べている。 | 介護実習に関する自己の課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。 |
| 主体的に取り組む学習態度 | 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む。 | 福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に専門職としての支援の在り方を具体的に述べている。 | 福祉の見方・考え方を働かせ、主体的に専門職としての支援の在り方を述べている。 | 福祉の見方・考え方を働かせ、専門職としての支援の在り方を述べている。 |

| | |
|-----------|---|
| 提出物 | 授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート(4回)、実習のまとめ |
| 評価方法 | 授業振り返りシート、施設実習の振り返りシート(4回)、実習のまとめ等を総合的に評価 |
| 評価割合(%) | 知識・技術:40% 思考・判断・表現:30% 主体的に学習に取り組む態度:30% |
| 関連する資格・検定 | 介護福祉士国家試験受験資格 |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|--------|------------------------------|------|---|---|------|
| 前 期 | 第1回 回 考 査 ま で | 介護演習 | ・介護実習Ⅰの意義、役割 ・長期入所施設事前指導 ・介護実習Ⅰに向けた準備 （行動計画の作成等） ・介護福祉士倫理綱領 | ①知識・技能 筆記試験 ②思考・判断・表現 筆記試験、授業振り返りの 記述内容 ③主体的に学習に取り組む態度 授業振り返りの記述内容 | 考査なし |
| | 第2回 回 考 査 ま で | 介護演習 | ・日誌の書き方 ・訪問介護事業所事前指導 ・長期入所実習振り返り （6/30～夏季休業中9日間） ・同行訪問実習振り返り （夏季休業中2日間） | ①知識・技能 筆記試験 ②思考・判断・表現 筆記試験、実習・授業振り 返りの記述内容 ③主体的に学習に取り組む態度 実習・授業振り返りの記述 内容 | |
| 後 期 | 第3回 回 考 査 ま で | 介護演習 | ・介護実習Ⅱの意義、役割、 アセスメント等について ・認知症GH、障害者支援 施設事前指導 ・長期入所実習振り返り （8/25～10/13） | ①知識・技能 筆記試験 ②思考・判断・表現 筆記試験、実習・授業振り 返りの記述内容 ③主体的に学習に取り組む態度 実習・授業振り返りの記述 内容 | 考査なし |
| | 第4回 回 考 査 ま で | 事例研究 | ・実習のまとめ作成 ・ 介護職員初任者研修修了 認定試験 ・認知症GH、障害者支援 施設振り返り（10/27～ 29・11/4～6） | ①知識・技能 考査、振り返りの記述内 容、Keynote等のプレゼン テーションアプリの記述内 容等 ②思考・判断・表現 振り返りの記述内容、 Keynote等のプレゼンテー ションアプリの記述内容等 ③主体的に学習に取り組む態度 振り返りの記述内容、 Keynote等のプレゼンテー ションアプリの記述内容等 | |

準備物及び学習へのアドバイス 等

- ①「介護実習（校外）」の事前・事後指導（実習に必要な書類・お礼状作成等）を兼ねています。
- ②「介護実習（校外）」と関連付けて指導を行います。
- ③第4回考査では、介護職員初任者研修修了認定試験を実施します（12月頃に課題提示）。
- ④実習のまとめは、事前に学級内で発表会を行い、代表者を選出します。
代表者は、3月の科集会で全学年に向けて発表します。

| | | | | | | |
|-------------|----|----------|------|------|---------|----|
| 教科 | 福祉 | 科目 | 介護実習 | | 必修・選択の別 | 必須 |
| 単位数 | 2 | 履修学年 | 4 | 履修学科 | 福祉科 | |
| 使用教科書 | なし | | | 副教材等 | なし | |
| 分割履修の有無（学年） | | 有（1・3学年） | | 授業形態 | 実習・演習 | |

| 科目の到達目標 | | |
|--|---|---|
| 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域における継続した生活を支援する知識と技術を身に付け、サービス利用者主体の生活支援に必要な資質・能力を身に付ける。 | | |
| 知識及び理解 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 介護及び支援の実践について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 | 介護及び支援の実践に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 | 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、介護及び支援の適切な実践に主体的かつ協動的に取り組む態度を身に付ける。 |

| 学習の評価 | | | | |
|----------|--|---|--|--|
| | 学習活動、指導上の留意点等 | A：十分に到達できている | B:一部は到達できている | C:到達に努力を要する |
| 知識・技能 | 多様な介護の場における実習において、サービス利用者主体の生活支援ができるよう、専門的な知識や技術を関連づけて取り組んでいる。 | 入所施設等の実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけながら、サービス利用者に応じた生活支援を実践できた。 | 入所施設等の実習に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけて介護過程を実践できた。 | 入所施設等の実習に取り組んだ。 |
| 思考・判断・表現 | 入所施設等の実習に意欲的に取り組み、専門的な知識や技術を関連づけながら、サービス利用者主体の介護過程を実践できた。 | 入所施設等の実習を通して、学んだ知識と技術を関連させながらサービス利用者主体の介護を実践し、成果と課題を記録することができた。 | 入所施設等の実習を通して、学んだ知識と技術を関連させながら実践し、成果と課題を記録することができた。 | 入所施設等の実習を通して、学んだ知識と技術を生かして実践し、成果を記録することができた。 |
| 学習主体の態度 | 多様な介護の場における実習において、自己の課題と向き合い、専門職として必要な支援ができるように取り組んでいる。 | 入所施設等の実習において、自己の課題と向き合い、実習担当職員のアドバイスを生かし、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。 | 入所施設等の実習において、自己の課題と向き合い、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。 | 入所施設等の実習において、専門職として必要な知識や技術の向上に取り組んだ。 |

| | |
|-----------|---|
| 提出物 | 実習日誌、介護過程の課題 |
| 評価方法 | 施設の実習担当職員が、実習に対する取り組み状況等を総合的に評価 A：5点 B：3点 C：2点 D：1点 E：0点 |
| 評価割合（%） | 知識・技術：40% 思考・判断・表現：30% 主体的に学習に取り組む態度：30% |
| 関連する資格・検定 | 介護福祉士国家試験受験資格 |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|--------|-----------------|-------|--|---|------|
| 前 期 | 第1回 考査 まで | | | ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 | |
| | 第2回 考査 まで | 介護実習Ⅰ | 入所施設実習①～⑫ 6/30(火) 7/7(火)・14(火) 夏季休業中 9日間 訪問介護実習 夏季休業中 2日間 | ①知識・技能 実習担当職員による評価票 ②思考・判断・表現 実習担当職員による評価票 ③主体的に学習に取り組む態度 実習担当職員による評価票 | 考査なし |
| 後 期 | 第3回 考査 まで | 介護実習Ⅱ | 入所施設実習⑬～⑱ 8/25(火) 9/1(火)・8(火)・15(火) 10/6(火)・13(火) | ①知識・技能 実習担当職員による評価票 ②思考・判断・表現 実習担当職員による評価票 ③主体的に学習に取り組む態度 実習担当職員による評価票 | 考査なし |
| | 第4回 考査 まで | 介護実習Ⅰ | 認知症グループホーム実習 障害者支援施設実習 10/27(火)・28(水)・29(木) 11/4(水)・5(木)・6(金) | ①知識・技能 実習担当職員による評価票 ②思考・判断・表現 実習担当職員による評価票 ③主体的に学習に取り組む態度 実習担当職員による評価票 | 考査なし |

準備物及び学習へのアドバイス 等

①評定は、施設実習の評価を反映させて、第2回考査～第4回考査に出します。

②「介護総合演習」と関連付けて指導を行います。

| | | | | | |
|-------------|-----------------|----------|------------|---------|--------|
| 教科 | 福祉 | 科目 | こころとからだの理解 | 必修・選択の別 | 必須 |
| 単位数 | 2 | 履修学年 | 2 | 履修学科 | 福祉科 |
| 使用教科書 | 実教出版 こころとからだの理解 | | | 副教材等 | なし |
| 分割履修の有無（学年） | | 有（1・3学年） | | 授業形態 | 一斉（座学） |

科目の到達目標

○発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解させる。
○認知症および認知症ケアの理念について理解し、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアに必要な基礎的な知識や技術を習得し、認知症の人に適切な支援を行う能力を育成する。

| 知識及び技術 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|--|
| 発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 | 発達や認知症についての課題を発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を考察することができた。 | 発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。 |

学習の評価

| | 学習活動、指導上の留意点等 | A：十分に到達できている | B：一部は到達できている | C：到達に努力を要する |
|---------------|--|--|--|--|
| 知識・技術 | 発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けた。 | 発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付け、応用的な考察につなげた。 | 発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解するとともに、関連する技術を身に付けた。 | 発達や認知症による心理面や身体機能の変化と日常生活への影響などについて理解しようとし、関連する技術を身に付けようと努力をした。 |
| 思考・判断・表現 | 発達や認知症についての課題を発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を考察することができた。 | 発達や認知症についての課題を主体的に発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を多角的に考察することができた。 | 発達や認知症についての課題を発見し、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容も活用した解決方法を考察することができた。 | 発達や認知症についての課題発見に努め、さまざまな知識・技能や情報、他科目の学習内容を活用した解決方法を見出そうとした。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。 | 発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が積極的に見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。 | 発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組むことができた。 | 発達の過程、認知症の症状に応じた生活や課題等について主体的に理解しようとする姿勢が見られ、主体的かつ協働的に学習に取り組もうと努力した。 |

| | |
|-----------|---|
| 提出物 | 学習プリント、各種課題レポート（タブレット端末によるものも含む） |
| 評価方法 | 年4回定期考査（観点別の問題）、小テスト、各種提出物、課題やグループワーク等の学習への取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価 |
| 評価割合（％） | 知識・技術（50）：思考・判断・表現（30）：主体的に学習に取り組む態度（20） |
| 関連する資格・検定 | 介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉介護福祉検定 |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|--------|-----------------|---|---|--|----|
| 前 期 | 第1回 考査 まで | 第3編 発達と老化の理解 第1章 人間の成長と発達 | 1 発達 2 発達段階 3 発達課題 4 老年期の定義と特徴 5 加齢に伴う心身の変化の特徴 | ①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| | 第2回 考査 まで | 第2章 老年期の理解と日常生活 第3章 高齢者と健康 | 1 加齢に伴う心身の変化と日常生活への影響 2 高齢者の心理 3 高齢者の疾病と生活上の留意点 4 高齢者の健康維持・増進 5 保健・医療職との連携 | ①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| 後 期 | 第3回 考査 まで | 第4編 認知症の理解 第1章 認知症をとりまく状況 第2章 認知症の基礎的理解 | 1 認知症介護の歴史と理念 2 認知症高齢者の現状と施策 3 認知症による症状 4 認知症の診断 5 認知症の主な病気の特徴 6 認知症の治療・予防 | ①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| | 第4回 考査 まで | 第3章 認知症に伴う心身の変化と日常生活 第4章 認知症と地域サポート | 1 認知症の人の特徴的な症状 2 認知症に伴う日常生活への影響 3 地域におけるサポート体制 4 家族への支援 | ①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |

準備物及び学習へのアドバイス 等

準備物：教科書、ファイル、タブレット端末

アドバイス：「こころとからだの理解」は「生活支援技術」に密接に関わっている科目のため、「生活支援技術」の学習内容も理解を深めておくように。

| | | | | | |
|-------------|----------------|------|-------------|-----------|-----|
| 教科 | 福祉 | 科目 | コミュニケーション技術 | 必修・選択の別 | 必須 |
| 単位数 | 2 | 履修学年 | 2 | 履修学科 | 福祉科 |
| 使用教科書 | 実教 コミュニケーション技術 | | 副教材等 | 自主教材 | |
| 分割履修の有無（学年） | 無 | | 授業形態 | 一斉（座学・演習） | |

科目の到達目標

- ・コミュニケーションに関する基礎的な知識と技術を習得し、援助活動で活用する能力と態度を身に付ける。
- ・介護を必要とする人を理解するための基本的なコミュニケーションの技法を習得することができる。
- ・他職種協働におけるコミュニケーションや記録・情報の共有化等、介護におけるチームケアのためのコミュニケーションを理解することができる。

| 知識及び理解 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
|--|---|---|
| コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することができる。 | 対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることができる。 | コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を行うことができる。 |

学習の評価

| | 学習活動、指導上の留意点等 | A：十分に到達できている | B：一部は到達できている | C：到達に努力を要する |
|---------------|---|---|---|---|
| 知識・技能 | コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することができる。 | コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を十分に理解することができる。 | コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することができる。 | コミュニケーションの意義と役割を理解すると共に、基礎的・基本的な知識を理解することに努めた。 |
| 思考・判断・表現 | 対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることができる。 | 対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について多角的に考えることができる。 | 対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることができる。 | 対人援助におけるコミュニケーションの諸問題について考えると共に、介護を必要とする人の自立生活支援の現状について考えることに努めた。 |
| 学習の主体的に取り組む態度 | コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を行うことができる。 | コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を主体的かつ協働的にすることができる。 | コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を主体的かつ協働的にすることができる。 | コミュニケーションの意義と役割に関心を持ち、意欲的に学習するとともにグループ活動等を主体的かつ協働的にすることに努めた。 |

| | |
|-----------|--|
| 提出物 | 学習プリント、学習ノート、各種課題 |
| 評価方法 | 年4回定期考査（観点別の問題）、小テスト、各種提出物、課題の取り組み状況等を観点別に照らし合わせ総合的に評価 |
| 評価割合（%） | 知識：技術（50）：思考・判断・表現（30）：主体的に学習に取り組む態度（20） |
| 関連する資格・検定 | 介護福祉士国家試験受験資格、介護職員初任者研修、社会福祉・介護福祉検定 |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|--------|-----------------------------|--|---|--|----|
| 前 期 | 第1 回 考 査 ま で | 第1編 介護におけるコ ミュニケーショ ン 第1章 コミュニケー ションの意義と 役割 第2章 コミュニケーショ ンの基本技術 | ・介護従事者として人間関係形成に必要なコ ミュニケーションの意味と役割について理解 する。 ・人間を理解する上で大切な他者理解、自己 理解を踏まえ、自己覚知、自己開示の必要性 と在り方を理解する。 ・コミュニケーションを取る意味について考 え、コミュニケーションを取るための基本的 態度を理解する。 ・言語的コミュニケーションや非言語的コ ミュニケーションの意義と役割を理解する。 ・傾聴、受容、共感、効果的な質問等、演習 を通して理解する。 | ①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| | 第2 回 考 査 ま で | 第2編 サービス利用者や家 族とのコミュニケーション 第1章 サービス利用者や家 族との関係づくり 第2章 サービス利用者に応 じたコミュニケーション | ・本人の置かれている状況を理解し、支援関 係の構築や意思決定を支援するためのコミュ ニケーションの基本的な技術を習得する。 ・本人や家族の置かれている状況や場面を理 解し、本人だけではなく家族への支援やパート ナーシップを構築するためのコミュニケーショ ンの基本的な技術を習得する。 ・加齢による心身の変化を理解し、高齢者に 合わせたコミュニケーションの必要性を理解 する。 ・障害の特性に応じたコミュニケーションの 基本的な技術を習得する。 | ①知識及び技能 定期考査、 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| 後 期 | 第3 回 考 査 ま で | 第2章 サービス利用者に応 じたコミュニケーション | ・障害の特性に応じたコミュニケーションの 基本的な技術を習得する。 | ①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |
| | 第4 回 考 査 ま で | 第3編 介護におけるチーム のコミュニケーション 第1章 記録 第2章 チームによる連携 第3章 スーパービジョンの 技法 | ・客観的な記録により利用者理解に繋が ることを理解する。 ・記録の種類について理解する。 ・情報を適切にまとめ、発信するため に、介護実践における情報の共有化の意 義を理解し、その具体的な方法や情報の 管理について理解する。 ・介護従事者として、自身の能力の向上 と成長させる方法としてのスーパービ ジョンを理解する。スーパービジョンの 方法を、演習を通して身につける。 | ①知識及び技能 定期考査 小テスト等の総合評価 ②思考力、判断力、表現力等 定期考査、ワーク、 小テスト等の総合評価 ③学びに向かう力、人間力等 課題への取り組み状況、 小テスト等の総合評価 | |

準備物及び学習へのアドバイス 等

準備物：教科書、副教材、ファイル

アドバイス：普段の生活の中でも人との人間関係構築のために必要になるのがコミュニケーションです。この教科を学ぶことで、人との距離感の図り方や話をする際の姿勢、その方の状態に合わせたコミュニケーション方法について学び、実習や日常生活で生かしてもらいたいです。

| | | | | | |
|-------------|----|------|------|---------|-------------|
| 教科 | 福祉 | 科目 | 福祉情報 | 必修・選択の別 | 必須 |
| 単位数 | 2 | 履修学年 | 2 | 履修学科 | 福祉科 |
| 使用教科書 | なし | | | 副教材等 | 実教出版 福祉情報活用 |
| 分割履修の有無(学年) | 無 | | 授業形態 | 一斉 | |

| 科目の到達目標 | | |
|---|---|--|
| 福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報及び福祉分野における情報の活用に必要な基礎的な資質・能力を身に付ける。 | | |
| 知識及び理解 | 思考力、判断力、表現力 | 学びに向かう力、人間性等 |
| 情報及び福祉分野における情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 | 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付ける。 | 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付ける。 |

| 学習の評価 | | | | |
|---------------|--|---|---|------------------------------------|
| | 学習活動、指導上の留意点等 | A:十分に到達できている | B:一部は到達できている | C:到達に努力を要する |
| 知識・技能 | 情報社会の進展に伴う情報や情報技術などについて理解する。 | 情報機器や情報通信ネットワークに関する知識や技術を福祉分野と関連させて理解している。 | 情報機器や情報通信ネットワークに関する知識や技術を理解している。 | 情報機器や情報通信ネットワークに関する知識や技術を理解していない。 |
| 思考・判断・表現 | 情報及び福祉分野における情報の活用に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。 | 情報及び福祉分野に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を具体的に述べている。 | 情報及び福祉分野に関する課題を発見し、介護従事者に求められる倫理観を踏まえ、解決する方法を述べている。 | 情報及び福祉分野に関する課題を発見し、解決する方法を述べている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、情報及び福祉分野における情報の活用に主体的かつ協働的に取り組む。 | 福祉の見方・考え方を働かせ、主体的かつ協働的に情報及び福祉分野における情報を適切に活用するための方法を具体的に述べている。 | 福祉の見方・考え方を働かせ、情報及び福祉分野における情報を適切に活用するための方法を述べている。 | 情報及び福祉分野における情報を適切に活用するための方法を述べている。 |

| | |
|-----------|--|
| 提出物 | 振り返りシート、課題レポート、実技試験で作成したデータ |
| 評価方法 | 評価の観点別に授業内テスト(筆記・実技)、提出物(振り返りシートや課題レポート)、学習への取り組み状況などを総合的に評価 |
| 評価割合(%) | 知識・技術:50% 思考・判断・表現:30% 主体的に学習に取り組む態度:20% |
| 関連する資格・検定 | 日本語ワープロ検定試験、情報処理技能検定試験 表計算、プレゼンテーション作成検定試験(いずれも日本情報処理検定協会) |

| 学習計画 | | 単元名 | 学習内容 | 評価方法 | 備考 |
|------|------------------------------|---|--|--|------|
| 前期 | 第1回 回 考 査 ま で | 情報で問題を解決する 情報を伝える Wordの活用① | 1) デジタル革命とインターネット 2) ICTが創る未来とは？ 1) ネットで変わるコミュニケーション 2) ようこそデジタルの世界へ！ 1) Wordの基本操作 2) Wordを活用した文書の作成 | ①知識・技能 授業内テスト（筆記・実技）等の総合評価 ②思考・判断・表現 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 | 考査なし |
| | 第2回 回 考 査 ま で | 情報を伝える コンピュータを活用する Wordの活用② | 1) 情報デザイン 3つのコツとは？ 2) 人を幸せにする情報デザインに挑戦 1) コンピュータ大解剖！ 2) プログラミングの基本をマスター！ 3) シミュレーションで見える世界 1) Wordの基本操作 2) Wordを活用した文書の作成 | ①知識・技能 授業内テスト（筆記・実技）等の総合評価 ②思考・判断・表現 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 | |
| 後期 | 第3回 回 考 査 ま で | 生成AIの基礎・活用・未来 Excelの活用 | 1) AIの基礎 2) 生成AIの基礎 3) 生成AIポリシーを考える 4) 生成AI活用を考えよう 5) 生成AIの未来 1) Excelの基本操作 2) Excelを活用した表の作成 | ①知識・技能 授業内テスト（筆記・実技）等の総合評価 ②思考・判断・表現 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 | 考査なし |
| | 第4回 回 考 査 ま で | データを活用 PowerPointの活用 | 1) データ分析にチャレンジ！ 2) データが社会を動かす！ 3) データを武器に問題解決！ 1) PowerPointの基本操作 2) PowerPointを活用した資料の作成 | ①知識・技能 授業内テスト（筆記・実技）等の総合評価 ②思考・判断・表現 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 ③主体的に学習に取り組む態度 課題レポート、振り返りシート等の総合評価 | |

準備物及び学習へのアドバイス 等

- ①筆記用具・ファイル・iPad（資料配布や振り返りシートで**必ず**使用）を毎時間準備して下さい。
- ②タイピング練習（ホームポジション3分間、日本語入力5分間）は、通年で毎時間授業の最初に行います。
- ③実技試験は、毎考査授業内で実施します。
試験内容…第1回・第2回：Word 第3回：Excel 第4回：PowerPoint
- ④筆記試験は、毎考査授業内で実施します。